北海道総合保健医療協議会
令和５年度第３回救急医療専門委員会　議事要旨

日　時：令和５年（2023 年）９月７日（木）18:00～19:00
場　所：オンライン開催（Zoom）

１　開会

２　議事
（１）協議事項

議題①　新たな医療計画素案たたき台について【救急医療】

【救急医療】
（事務局）
資料１に基づき説明

（委員）
前回の議論の内容が取り込まれていて良いと思うが、確認として、前回議論の中で、計画には取り込めなかった部分があれば、教えてほしい。

（事務局）
前回、ＡＣＰに関して道として示すべきところがあるのではないか、とのご意見があったが、その点については現在検討中であり、盛り込むことができなかった。

（委員）
３ページの二次救急医療体制について、救急告示医療機関の数が掲載されているが、実際に救急車の対応状況がどうなっているのかを数値として示すことで、二次救急医療圏域で対応できている、または、対応出来ていない、という点が示せるのではないか。道の方で把握可能だと思うが、如何か。

（事務局）
救急車の受入状況については、今回計画の策定にあたり 58 の消防本部に救急車の搬送先を照会させていただいた。圏域の中で医療が収まっているか確認したところ、状況として、低いところで 80%程、高いところでは 100%近く、99.9%という結果だった。

（委員）
データがあるのであれば、掲載してもらえると説得力が増すと思う。

（事務局）
二次圏域ごとのデータを取っている。掲載は検討させていただきたい。

議題② 新たな医療計画素案たたき台について【災害医療】

（事務局）
資料２に基づき説明

（委員）
２ページ目で北海道エアポート（株）が協力機関と追記された。下段の＊１のＤＭＡＴの説明の部分に、大地震、航空機、列車事故と入っている。文章の流れとして、１ページ目、二つ目の〇について、鉄道事故の記載はあるが、航空機事故の記載が無いので、追加してはどうか。

（事務局）
ご指摘のとおり、修正対応させていただく。

（委員）
９ページの歯科医療機関の役割について、奥尻の大震災の際、道からの委託を受け、北海道医療大学がプロジェクトチームを組んで、入れ歯をなくした方の入れ歯を作ったり、一番辛かったのは検診だったという報告を聞いているが、非常に奮闘して評価を受けたところ。その中で、病院歯科という項目について、要望となるが、北海道には、病院歯科が無い地域が宗谷・後志・日高・留萌と４地区あり、面積的には非常に広い範囲となっている。我々歯科医師会としては、万が一の時には病院歯科が中心となっていかなければならないと理解している。機会がある毎に、４地区の病院歯科をなんとかして欲しいと言い続けている。先ほど、8020 歯っぴいぷらんの説明もあった。病院歯科を新設するハードルも高いと聞いているが、皆様にご協力いただき、一地区でも解消したいと考えているので、ぜひ、ご理解とご協力をお願いしたい。

（事務局）
ご要望に関して、担当課である地域保健課とも共有してまいりたい。

（委員）
３ページのＮＢＣのＮについて。ＤＭＡＴの教育について、これ自体は賛成だが、実際にこの計画を進めるに当たって、原発災害を担当している危機管理部局との擦り合わせはどのようになっているのか。

（事務局）
原子力安全対策課とは協議していない。今のご意見を受けて、関係課にも計画を見せて、必要な調整をしてまいりたい。

（委員）
４ページ目の課題について、記載されているのは必要なことばかりであるが、最近、気になっている点が、患者になっていない方も含めた環境障害について。

真冬に暖房がなく、低体温症の発症などが危惧されるところ。これをどうするかは、難しい話であると理解しているが、例えば病院レベルで大量に低体温の患者が発生した場合にどのように対応するのか、また、広い範囲で低体温を予防する対応をしていかなければ、北海道の場合、寒い時期には低体温でやられてしまうのが目に見えている。 この点について、課題に盛り込んでは如何か。

（事務局）
ご意見のとおり、課題だと思う。ＤＭＡＴ訓練でも冬期を想定した訓練なども行っている。北海道特有の寒冷地における冬期の災害対応について、文章などは検討させていただきたい。

（委員）
災害に関わる新たな職種の名称が出てきたが、職種により記載頻度が大きく違う点が気になる。例えば２ページ目にＤＰＡＴの派遣要請の記載があるが、ＤＰＡＴに関する記載はここだけ。どの職種も必要なのだと思うので、記載するのであれば、それぞれの職種の役割を計画内できちんと整理すべきかと思う。

（事務局）
縦割りで恐縮だが、ＤＰＡＴは障がい者保健福祉課で所管している。担当課との相談の中では、医療計画中の精神疾患の節で記載することとしている。

（委員）
完全に縦割りで言及すらしないということであれば、記載を削った方がいいのでは。

（事務局）
ご意見については、担当部署と相談の上、次回に向けて検討させていただきたい。

（委員）
8 ページに、ＤＭＡＴの指定医療機関のリストあるが、重要なのは指定医療機関の場所や数だけはなく、各医療機関にＤＭＡＴの隊員がどれだけいるのか、ということも必要な情報だと思う。道庁で把握しているかと思うので、記載すべきでは。

（事務局）
チーム数を入れていくようなイメージか。

（委員）
チーム数でも、隊員数でもいいと思う。北海道ＤＭＡＴや全国ＤＭＡＴのチーム数でも人数でもいいと思う。地域や人数の偏りが分かるのではないか。

（事務局）
ご意見を踏まえ、チーム数などの追記について検討させていただく。

（委員）
１ページに、方向性を規定するような要因があると思うが、災害医療の体制を組むにはやはり、想定が必要ではないかと思う。内容的には総論になるのは、計画という性質上仕方が無いと思うが、例えば今実際に想定されている有珠山噴火や、色々な科学データが集まっており、起きたら大事になる根室沖地震など、計画という書き物に沿うかは分からないが、過去を踏まえて想定するだけではなく、実際に科学的に想定がなされている災害も組み込んだ形で考えては如何か。

（事務局）
国の方では千島・日本海溝型の地震と行った具体的計画があるが、どこまで記載するかは少し検討が必要。起こりうる災害への準備についての記載について、検討させていただく。

議題③ 新たな医療計画素案たたき台について【小児医療】

（事務局）
資料３に基づき説明

（委員）
７ページ目の療育支援体制の確保について、新たに赤字で記載いただいた部分があるが、ここは非常に困っている部分である。各々、二次医療圏で対応できれば良いなと考えている。もう一点、札幌市の場合は痙攣を起こした救急医療患者について優先的に診るような仕組みを取っているが、全道的には、まだそのような体制がとれていない。小児科のいない地域では、内科の先生にはなかなか診てもらえない。出来れば「ダイアップ」という痙攣を抑える薬を使っていただいて搬送してもらいたい。また、小児の糖尿病の患者が低血糖を起こした際の薬を救急車や一般のところではなかなか使えないという現状がある。小児救急は小児科が診ていきたいが、小児科がいない地域では、内科の先生に対応してもらうこととなるので、そうした周知をぜひして欲しい。もし、医療計画の中に書けるのであれば、よろしくお願いしたい。

（事務局）
医療的ケア児の取組については、計画に記載し、これから関係部局と連携して取り組んでいきたいと考えている。小児の救急については、内科医を対象とした研修会をしているので、こちらの周知徹底に努め、地域の小児救急への対応力を高めるよう周知していきたいと考えている。

（委員）
　１１ページ目のイメージについて、左側に消防機関等として患者搬送の記載があるが、それに加え、二次救急から三次救急にかけてメディカルウイングでたくさんの小児患者が運ばれている。メディカルウイングの事業は医師会や道とともにやっている北海道特有の事業でもあるので、そうしたところを文章やイメージに入れたりすることは出来ないか。

（事務局）
　メディカルウイングについては、救急と言うより計画搬送というところもある。図では、救急のルートとは別にはなるが、右側の高度専門医療機関と専門医療機関をつなぐ役割として記載しようかなと検討している。書きぶりとしては、確かに道特有の事業として皆様方にご協力いただいている事業であることも踏まえ、検討させていただきたい。

（委員）
　４ページにある小児救急電話相談事業について、札幌市で実施している＃７１１９事業の棲み分けについては何か。

（事務局）
　道で実施している＃８０００、小児救急電話相談事業については、小児を対象とした電話相談となっており、全道を対象としている。＃７１１９は、札幌市が周辺の町村を含めて実施しており、対象は子どもに限らず大人も含んでいる。対象地域や子どもという専門性で棲み分けている。

（委員）
　それについてはよく分かるが、小児に関してはあえて二本立てで行くということなのか。子どもに関してだけ全道でカバーし、札幌周辺に関しては大人も子ども受ける、という複雑な体制でやっていくのか。

（事務局）
　重複しているように思われるが、道事業は小児科の先生や小児科勤務経験のある看護師が相談を受けているので、＃７１１９とは異なると考えている。

（委員）
　小児の電話相談は、軽症でも子どもが夜間に病院に受診することから、小児科医の負担を減らそうと言う目的の事業。札幌市の場合は夜間急病センター等の対応が取りやすいが、地方の小児科の医者がいないようなところでは、保護者が受診すべきか迷うところに対応することとなる。小児電話には札幌市の相談も多くあって、重なる部分もあるかと思うが、夜間に発熱した際にどうしたら良いのかと言う相談がほとんど。小児科の診療を軽くすることが目的の事業であり、有効に活用されていると思う。道事業とは目的が異なると考えている。

（２）報告事項
（議事なし）

３　その他
（意見なし）

４　閉会